

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 4月 12日

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 研究・研修課題名 | 「認定視能訓練士」取得のための研修 |
| 研究・研修組織名（所属） | 「認定視能訓練士」取得のための研修 |
| 研究・研修責任者名（所属） | 小村哲郎（眼科） |
| 共同研究・研修者名（所属） | 小村哲郎 安井愛佳 梅穂花 松重浩司 土井涼子 安部梨奈（眼科） |

目的及び方法、成果の内容

①目 的（800字程度）

視能訓練士協会では2006年より生涯教育制度が開始され、教育プログラムを終了して所定の条件を満たしたものを「認定視能訓練士」とすることが決定された。2013年より「認定視能訓練士」が誕生するようになった。

今日の高度医療社会において、視能訓練士自身が自己研鑽・自己啓発に努め、多様化する社会的ニーズや医療を取り巻く環境の変化に対応し、社会に貢献できる専門職として学習し続けなければならない。視能訓練士協会は会員の意識を高めて、専門職として国民生活の質的向上に寄与できる知識や技術の向上を図り、個々の視能訓練士が輝きながら生き残っていく力をつけるための生涯教育制度を構築している。生涯教育制度で学び、国民の健康の向上や維持に貢献できる知識と技術を習得し続けている者に対して「認定視能訓練士」の称号を授与し安心できる医療を提供するものである。

新人教育プログラムと基礎教育プログラム受講と、学会発表・参加・研修会で得られる単位を取得することで「認定視能訓練士」が取得できる。

当院の視能訓練士が将来的に「認定視能訓練士」を取得することを目的とする。

②方 法（800字程度）

「認定視能訓練士」取得の条件

- ・公益社団法人 視能訓練士協会の定める基礎教育プログラムⅠ～Ⅲを受講し、公益社団法人視能訓練士協会の定める学会・研修会に出席してプログラム開始時より10年以内に20単位以上取得し、基礎教育プログラムを終了
- ・視能訓練士免許取得5年（1300日）以上の臨床経験
- ・基礎教育プログラム履修申請日から780日以上の臨床経験

学会・研修会に参加して単位を取得する

2016年度開催

基礎教育プログラムⅢ（必須研修）

2017年2月18～19日 大阪 CIVI研修センター新大阪東

第57回日本視能矯正学会（出席単位：6）

2016年10月15～16日 大阪 大阪国際会議場

第72回日本斜視弱視学会総会・第41回日本小児眼科学会総会 合同学会（出席単位：4）

2016年6月24～25日 横浜 パシフィコ横浜

島根県視能訓練士勉強会（出席単位：0.5）

2016年5月24日 10月9日 松江総合医療専門学校（松江市）

③成 果（データ等の図表を入れて2000字程度）

基礎教育プログラムⅢ 出席者：小村哲郎

視能矯正

2017年2月18日 大阪 CIVI 研修センター新大阪東

グループワーク

出席者が5人ずつのグループに分かれ、提示症例の検討。

- ①医学的所見（視力・遠視・近視・斜視の状態）
- ②必要な検査・診察
- ③検査から導き出された問題点
- ④問題点の解決方法（治療計画）

以上のことについてグループワーク、まとめてプレゼンテーションを行った。

- ・問診をしっかりとる
- ・目的を持った検査を施行
- ・検査結果の評価・診察で問題点リストの作成
- ・治療・視能訓練計画
- ・経過観察のポイント

斜視・弱視の症例に対する検査、治療計画を学んだ。

分かりやすいようにプレゼンテーションを行う方法を学んだ。

基礎教育プログラムⅢ 出席者：小村哲郎

視能障害

2017年2月19日 大阪 CIVI 研修センター新大阪東

視覚に障害があるために、生活に何らかの支障を来している人に対する医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的な支援を行う Low Vision care を学ぶ。

- ①医学的な管理のもと患者さんのニーズの把握
- ②視機能評価
- ③視機能補助具の選定・指導
- ④関連機関の紹介

現状として、Low Vision 外来を行っている施設は少ないのが現状で、医療機関がもっと Low Vision care に関わっていくことが必要。

拡大鏡

患者さん個人個人に合わせた拡大鏡の選定方法

公的補助

身体障害者手帳

補装具（義眼・眼鏡・盲人安全杖）

日常生活用具（拡大読書器、音声式時計・体温計・体重計、拡大活字本等）

グループワーク

出席者が5人ずつのグループに分かれ、提示症例の検討。

- ①医学的所見（疾患・視力・視野の状態）
- ②主訴

③問診によるニーズ

以上3点の情報から Low Vision care についてグループワーク、まとめて発表を行った。

- ・疾患ごとによる見えにくさの特徴
- ・残存視野の有効利用方法の検討
- ・現在の視力で見たいものを見るときに最適な拡大鏡の選定
- ・Low Vision care におけるパソコンの有用性

Low Vision care の基礎知識から一連の流れを学ぶことができ、今後当院で Low Vision 外来を始めるときの参考にできるものとなった。

上記基礎教育プログラムⅢ「視能矯正」、「視能障害」の2項目を2日間受講し、修了した。(修了証添付)

島根県視能訓練士勉強会 (0.5 単位)

2016年5月24日

出席者：小村哲郎 安井愛佳 梅穂花

「当院における検査フローチャート」

市岡眼科クリニック 視能訓練士 増本 富彦

「3D Visual Function Trainer-ORTe の特徴と使用経験について」

松江赤十字病院 視能訓練士 小西 久美子

「3D Visual Function Trainer-ORTe の臨床応用の可能性について」

松江赤十字病院 視能訓練士 小倉 有加里

2016年5月24日 (0.5 単位)

出席者：小村哲郎 安井愛佳 梅穂花

「地域医療と視能訓練士の関わりについて」

浜本眼科クリニック 視能訓練士 岡本 拓弥

「松江市3歳児健康診査(視覚健診)の現状」

松江市立病院 視能訓練士 井上 由貴

「松江市3歳児健康診査(視覚健診)の集計の結果」

野田眼科医院 視能訓練士 赤山 志穂

「松江市立病院における眼科精密検査の受け入れ状況について」

松江市立病院 視能訓練士 引野 彩音

「松江市内の眼科精密検査についてのアンケート集計報告」

松江市立病院 視能訓練士 川田 哲也

第57回日本視能矯正学会 (6 単位)

大阪国際会議場 2016年10月15日(土)・16日(日)

出席者：梅 穂花

二日間行われる日本視能矯正学会に代表で行かせていただくことができた。とても有名で大きな学会で、日本中の偉大な先生たちが集まって発表されたり、熱い討論を繰り広げたりされる場である。発表を聞いているだけで、自分の知らなかったことが学べたり、自分の先入観を取り払って、新たな知識を得ることが出来た。特に印象に残ったのは、斜視弱視の議題である。最近有名になってきた、Occlupad について、の発表、ポスター発表ともに多く出されており、とても勉強になった。この学会で得た知識を今後の外来診療に役立てていきたい。

第72回日本弱視斜視学会総会

第41回日本小児眼科学会総会（4単位）

パシフィコ横浜 2016年6月24日～25日

出席者：安井 愛佳

斜視弱視や小児眼科についての最新の情報を得るため、学会に参加させて頂きました。特に屈折検査機器のスポットビジョンスクリーナーと、弱視訓練道具のオクルパッドについて多くのことを学ぶことが出来ました。

スポットビジョンスクリーナーは、スクリーニングにとっても有用で、短時間で測定できるので、他の屈折検査機器では測定できなかった小児に対しても測定が可能な機械です。スポットビジョンスクリーナーの実際とこれからの弱視スクリーニングについて知ることができました。

また、オクルパッドについても、当院では昨年から使用しており、他院の使用状況やコンプライアンスなどを知ることができました。まだ、新しい訓練方法なので、分からないことも多いですが、とても有用な訓練方法であると感じました。

今回得た多くの知見を今後の検査業務に生かしていきたいと思います。